

年頭にあたって

矢吹町長 野崎 吉郎

新年あけましておめでとうございます。

新しい年の始めにあたり、皆様のご多幸をお祈り申し上げるとともに、日頃町政の様々な分野において、皆様のあたたかいご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。

昨年は、例年にも増して町民のみなさんの活躍が非常に目立った一年でありました。

スポーツ面では、8月に行われた「ベルリン世界陸上」において、陸上女子4百メートル競技に2大会連続で出場した丹野麻美選手の活躍。そして県中学校駅伝競走大会において史上最多タイとなる「5連覇」を成し遂げ、全国大会でも大健闘した矢吹中学校女子駅伝チーム。そのメンバーの中でも、栗崎恵理子さんは全国都道府県対抗女子駅伝競走大会に福島県代表として出場し、また長尾江里子さんは全日本中学校陸上大会の8百メートル女子競技で第4位に入賞しました。

文化面では、善郷小学校器楽クラブの全国大会への2年連続の出場。県統計グラフコンクールでは、当町の小学生が、実質1位及び2位にあたる県知事賞・県教育長賞を3部門独占したほか、多数の入選を果たし、中でも矢吹小の井上陽さん、三神小の諸根ほのかさんが同全国大会で佳作を受賞しました。

また、産業祭「ぎょうさん祭り」や「あゆり祭」をはじめ、町恒例の各種イベントは毎回大盛況を見せましたが、その華やかな陰で尽力された実行委員やボランティアのみなさんのご協力なくしては、これらの成功はあり得ませんでした。誠にありがとうございました。今年も昨年以上のご協力心からお願い申し上げます。

このように、多方面において、町民のみなさんが素晴らしい活躍を見せていただくたびに、矢吹町の「ひと」の活力は他市町



村を明らかに凌駕するものであると確信し、その人的資源は、今後のまちづくりの大きな原動力になるものと期待しております。

一方、財政状況についてありますが、現在町では、平成19年に策定した「財政再建3カ年計画」に基づき、財政の健全化に向けて職員が一丸となって取り組んでいるところであり、平成21年度が計画の最終年度となっています。その結果、計画期限の今年3月末までに、削減目標額である7億5千万円の達成が可能な見込みとなりました。目標達成の瞬間までは手綱を緩めることなく邁進する覚悟でございますが、ここまで至ることができたことは、ひとえにこれまでの皆様のご理解ご協力があったことと感謝しております。この場をお借りし、重ねて感謝申し上げます。

また、長年の懸案となっていた矢吹中学校の耐震化計画についても、財政再建3カ年計画の目標が達成できる見込みになったこと、さらに国が昨年打ち出した経済危機対策の一つである「スクール・ニューディール構想」を活用し、町の一般財源負担額を従来の計画より大幅に軽減できる見通しがあったこと等により、改築事業に着手することが出来ました。さらに幼稚園・小学校の耐震化についても実現の目途が立ち、旧年は子どもたちの安全安心の確保に向け、大きく前進した一年となりました。本年はこれら事業について、早期の完成を目指すべく取り組んでまいります。

さらに、産業も元気になりつつあります。今年いよいよ竣工し、本格操業する「レングー株式会社」。既存の町内企業とともに、矢吹町の産業振興の牽引役となっていたくださることを期待しております。

このように、財政面においても明るい兆しが見え始めた今年、町は新たな方向へと踏み出していきます。平成22年度には新たな集中改革プランを明示し、行財政の構造改善推進を強化し、確固たる財政基盤、そして迅速かつ的確な行政体制の確立を構築してまいります。

…これまでに述べたように、今や矢吹町は「ひと」「産業」「財政」の資源が充実した可能性あふれるまちへと生まれ変わりつつあります。ようやく私の二期目における重点課題である「協働のまちづくり」そして「産業振興のまちづくり」に本格的に取り組む段階になったと実感しております。今年、この「2つのまちづくり」を軸に、「みんなのでん」のふるさと「やぶぎ」の実現に向け、全力で取り組んでまいります。皆様により一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様にとりまして、今年がさらに光輝く一年となりますよう心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

